

教区通信

ふくおか

2025(令和7)年11月1日発行

Vol.147

発行

「御同朋の社会をめざす運動」
福岡教区委員会



「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動) スローガン

結ぶ絆から、広がるご縁へ

—From tying bonds to great encounters—

戦後80年戦争犠牲者追悼法要

～非戦・平和を願うつどい～



▲ 戦後80年戦争犠牲者追悼法要 ～非戦・平和を願うつどい～

P2 戦後80年戦争犠牲者追悼法要 ～非戦・平和を願うつどい～

- P3 太平洋戦争全戦没者・
沖縄戦終戦80年追悼法要
- P4 第34回全国保育大会
第50回九州地区保育研修佐賀大会
福岡教区布教団 布教大会
- P5 門徒推進員 第1回全員研修会

- P5 若婦実践運動研修会
- P6 第49回九州地区真宗青年の集い 宮崎大会
第3回福岡教区勤式研修会のお知らせ
- P7 親鸞聖人報恩講法要・帰敬式のお知らせ
- P8 法話「永遠不変な意味」

戦後八十年戦争犠牲者追悼法要

～非戦・平和を願うつどい～

伊藤 真利(那珂組 光明寺)

二〇二五(令和七)年六月十九日に、福岡教区「戦後八十年戦争犠牲者追悼法要～非戦・平和を願うつどい～」が、サワラピア・大ホールにて開催され、教区内の門徒、坊守、住職など約二百十名にご参拝いただきました。

追悼法要は、教務所長導師のもと各組の代表が結衆となり、正信念仏偈作法(音楽依用)を、「福岡教区声明と雅楽の会」「福岡仏教讃歌の会」と共にお勤めいたしました。

記念講演のご講師は、本願寺史料研究所所長の赤松徹眞さんにお越しいただき、「戦後八十年 本願寺教団は、いま」の講題でお話いただきました。本願寺教団が戦時中ではご門主のご消息を聖教とし、総力を挙げて戦争協力していたこと、戦後は深い反省と慚愧の心から、一九八一年より「千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要」を勤修し、一九九五年四月十五日には、本山御影堂で「終戦五十周年全戦没者総追悼法要」が勤修され、即如門主(当時)がご親教を出されたこと等をお話さ



れました。

赤松さんは、「戦後問題」検討委員会の委員長を務められ、一九九六年一月二十四日に、答申を出されましたが、上記の戦時中のご消息の依用禁止については、すぐに実行されたが、他については不十分であるところ指摘になりました。

記念行事は、「福岡仏教讃歌の会」のコーラスでした。五十名の皆様に、七曲三十分歌っていただきました。混声合唱の圧巻の歌声に、会場は大きな拍手に包まれました。

また、ロビーでは、「兵士と戦争記念館」からお借りした戦時中の資料を展示しました。戦時中の貴重な資料ということもあり、皆様じっくりと鑑賞していただきました。

赤松さんは、タレントのタモリさんがテレビ番組で、司会者の「来年はどんな年になりますかね」との問いに、「新しい戦前になるんじゃないですかね」と語られたのが印象に残っているそうです。

確かに、一九九〇年代後半頃から、日米新ガイドライン、周辺事態法の成立や、有事関連法案の成立、集团的自衛権の行使が容認され、防衛費は年々増加しており、タモリさんの言葉通りになってきています。

「一人の念仏者として、どう生きていくのが問われている」という言葉が印象に残りました。



太平洋戦争全戦没者・沖縄戦終戦八十年追悼法要

福岡教区 団体参拝に同行させていただき思うこと
細川 勉(近畿日本ツーリスト)

皆様いつもお世話になっております。今回、七月二、四日にて太平洋戦争全戦没者・沖縄戦終戦八十年追悼法要 福岡教区団体参拝二泊三日に同行させていただきました。僭越ながら、同行させていただきました、私なりに今想うこと、感じたことを書かせていただきます。

今回の私の仕事は、同行添乗員として皆様の二泊三日の行程管理が主であります。しかしながら、皆様の旅行は単なる観光旅行とは違い、普段サラリーマン生活をしておりましたら感じるこのできない、そして、日本人として避けては通れない問題が今あることを感じざるを得ません。

戦争のこと、戦後のこと、今日の平和、今の自分があること、犠牲にしてきたもの、沖縄の現状、アメリカとの関係日本の政治、複雑な情勢、こういったことに自分なりに思いを様々馳せる時間をいただきました。とても有難く、尊いものだと思います。参加させていただきありがとうございます。



ございました。自分なりの答えは見つかりませんが、引き続き勉強して、できることを考えていきます。

もう一つ、皆様の旅行で好きなのところがあります。幅広い年齢層の方と接することができることです。今回、ご旅行の参加者の年齢は、二歳から八十代と幅広い層の方にご参加いただきました。他の旅行ではなかなかないことです。世代の分断が進んでいるように感じる昨今、同じ空間にいれること、本当に素晴らしいことだと思います。

最後に、人と人、国と国、人種、世代間、そしてお隣の人ですら、お互いを理解し合うことは難しいのかもしれませんが、しかし、相手の気持ちを想像し理解しようとすること、そこに対して努力をすること、それは自分次第だからできるはずです。その重要性を改めて感じる事ができました。それは、参加された皆様が、それに必要な要素である、優しい気持ち、おおらかな気持ち、受け入れる心を持つていることを感じる機会が幾度となくあり、私自身が優しい気持ちになれたからです。想いは共鳴する。また、九十年の法要の際には、ぜひ参加させていただきたく、先ではありますが、どうぞよろしくお願いいたします。



第三十四回全国保育大会 第五十回九州地区保育研修佐賀大会

龍 真由美 (正光乳児保育園)

本年七月十九日～二十日、佐賀市内のホテルにおいて保育大会が四百名の参加のもと盛大に開催されました。大会テーマ『思いやり 支え合い』ともに育ち合う「阿弥陀さまの御心・願い・利他心」のもと、前野隆司さん(武蔵野大学教授)による「ウエルビーイングと自利利他円満」、小池秀章さん(龍谷大学非常勤講師)による「浄土真宗のみ教えを学ぶ」のテーマで講演がありました。

人は自分さえよければいいと思う煩惱を持っているが、仏様に「南無阿弥陀仏」と手を合わせて称えていると、周囲の方々に支えられている、お陰様で今の自分があるということに気付くことができました。同時に、改めて人との繋がり有り難さを感じました。

講演終了後の懇親会では、サクセスの生演奏からスタートし、一気に会場内が熱気に包まれ楽しい時間となりました。

翌日は、御朝事後、坂本喜一郎さん(たちばな福祉会常務理事)による「子ども主体の保育の魅力と可能性」のテーマで講演があり、実際に日々子ども達と向き合いながら、三十四年かけて、現在の保育にたどりついたことを写真を交えながら話していただきました。子ども達一人一人の『やりたい!』に寄り添って保育をされている様子に感心しました。

これから研修で学んだことや、まことの保育に携われていることに感謝して保育していこうと思います。大会関係者の皆様ありがとうございました。



福岡教区布教団 布教大会

笠 一道 (早良組 西音寺)

本年八月二十九日、東筑組西徳寺様の本堂がお念仏の御同行で満堂になる中、福岡教区布教団布教大会が開催されました。昨年度は、台風接近によって直前に中止を余儀なくされたので、本年度、会所・出講者もそのままに満を持しての開催となりました。西徳寺様には再度の準備等で大変ご苦労をおかけしました。

大会では、七人の布教使が御出講になり、阿弥陀さまのお法(みのり)を繙き下さりながら有り難く、法味溢れるお取継ぎをお聴聞しました。「仏法は一人居て悦ぶ法なり、一人居てさへたふときに、まして二人寄合はばいかほどありがたかるべき。仏法をばただ、寄合ひ寄合ひ談合申せのよし仰せられ候ふなり(蓮如上人御一代聞書)」と蓮如上人は、み教えを語り合うことのできる尊さを仰せです。私はよくよくのご縁の中で、阿弥陀さまの願力に遇わさせていただいたのですが、このお法(みのり)に出遇うとてよかつたねと味わいあえるお同行と共に聴聞できましたことは何よりの喜びでございました。

私たちの境界はザツといきません。皆それぞれ色んなものを抱えながらに生きています。それはなんぼ人と抱き合うて擦り合わせたって誰にも分かってもらえない様なものを抱えて生きています。ザツといかんものを抱えている私の全てを知り抜いてくださった阿弥陀さま、その阿弥陀さまのお慈悲の雨にずぶ濡れになって浸らせていただいた布教大会となりました。



門徒推進員 第一回全員研修会

門徒推進員 福山 健二(宗像組 延樂寺)

本年八月三十一日に、八十八名参加のもと研修会を開催しました。講師の三好慶佑さん(夜須組 眞浄寺住職)から問題提起がありました。テーマは「門徒推進員とは・・・」でした。

配布資料から導かれる「門徒推進員とは」①教団の運動に積極的に参加する人(要綱)②一般社会や日常生活に根差した実践運動を推進する者(規程)③阿弥陀如来のお心を私の「ものさし」(価値判断基準)とし、それぞれが自覚と主体性をもって歩み続ける念仏者(理念)④「資格」ではなく「自覚」、そして「生き方」へ(理念策定)と定義づけられます。話し合い法座の問題は①連研受講の理由②中央教修参加理由③私にとって「門徒」「教え」「お寺」「教団」とは何でしょう?④私にとって「念仏者という生き方」とは?であると提起されました。

参加者が八班に分かれて、昼食をとりながら提起された問題についての話し合い法座が実施されました。各班共に活発な発言が相次ぎ、大いに盛り上がり楽しい時間を共有しました。また、様々な意見や情報を通じて交流すること、門徒推進員としての役割・自覚が再認識され連帯感が醸成されました。話し合い法座での発言内容については、全体会に於いて各班の書記が順次発表し、参加者との間で質疑応答がなされました。



若婦実践運動研修会

藤山 康子(怡土組 正善寺)

本年九月五日福岡教堂において、講師の田中信勝さん(佐賀教区北山組最勝寺住職)から「仏教婦人会綱領」についての研修を受けました。

浄土真宗は「祈願する宗教ではない、生き方について学ぶ宗教です」と教えてもらいましたが、お経や偈は現代語ではないので、ここから「生き方」を読み解くのは難しいと思います。仏婦の行事では、仏教婦人会綱領の唱和があり、「〇〇します」と行動を宣言しますので、この研修で具体的に「生き方」が分かるのではないだろうかとの研修会に臨みました。



講師は、虫、鳥、魚の三つの目を持つ事の大切さを述べられました。①虫の目は近くのをしっかりと確かに見る目、現実をつかむ目です。②鳥の目は高い所から全体を見る目です。③魚の目は、えらがあつて水流を見るが、流れをつかむ目です。大切なことだと思いました。次に二〇一八年に綱領が改定されたことを話されました。旧綱領は「み法の母として云々」や「仏の子どもを育てます」等の文言があったが旧来の家族観ではなく多様性を認め一人ひとりを大切にする宗教だから改定されたと説明されました。

最後の綱領中の「み仏の願いにかなう生き方」については、正直わかりませんでした。もっと学びなさいということかと思った次第です。尚、「研修は受けたが理解が難しい」と話していたところ、住職さん達から「『念仏者の生き方』を読んでみては」とか、「怡土組の若婦で関連の法話会をしては」等の話が出て、今後の法話会等を計画する際のヒントをいただきました。

浄土真宗本願寺派 九州地区門信徒の集い 第四十九回九州地区真宗青年の集い 宮崎大会

岸 陽向子(柳川組 金台寺)

本年九月六日(土)～九月七日(日)、アートホテル宮崎スカイタワーにて宮崎大会が開催されました。九州各地から約七十名が参加され、「私のあたりまえ、あなたのあたりまえ？」という大会テーマのもと、二日間にわたり講演会が行われました。

一日目は、危機管理教育研究所の代表であり、危機管理アドバイザーの国崎信江さんに「近年の自然災害を教訓として防災の知識をアップデートする」、二日目は性同一性障害(MtF)当事者の黒木瑞季さんに「それでも、生きぬいた。」という演題でお話をいただきました。

私は今回の大会で防災とLGBTQ、二つの演題を通し、私の中の「あたりまえ」を深く見つめ直す機会をいただきました。これまで「地震の揺れを感じたらテーブルの下に」は、私にとってあたりまえの防災知識でした。しかし、その行動はかえって危険である場合もあり、環境や状況によって対策を考えて行動する必要があることを知りました。仏さまの教えの中に、あたりまえがあたりまえではなく、有り難いことであると気づかされることがあります。

日常が有り難いことであると考えると、防災において正しい知識を学び、備えていかなければならないと思います。

また、差別や偏見は無知や無関心から起こると知り、これまで自分の物差しで相手と接したことで、傷つけたり苦しみを見過ごしたりしていたのではないかと不安になりました。私の中のあたりまえが本心に正しい知識なのか、他の人にとってもあたりまえであるのか、疑問を持つことや知ろうとすることを大切にしていきたいと思っています。



第三回

福岡教区勤式研修会のご案内

和 田 法明(御笠組 西福寺)

今年度の「福岡教区勤式研修会」は、「浄土真宗本願寺派 葬儀勤行集(拡充版)・葬儀のてびき」をテーマに開催いたします。

宗門では、葬送儀礼のすべての勤行における次第の推奨のため『浄土真宗本願寺派葬儀勤行集』『浄土真宗本願寺派葬儀規範』を本願寺出版社より発行しております。本『浄土真宗本願寺派葬儀勤行集(拡充版)』は、従来の『葬儀勤行集』に加え、葬儀を執行する各僧侶が儀礼空間の構築に創意工夫を尽くしていただく参考として構成されたものです。宗門の推奨する次第や葬送儀礼の本義を保持しつつ、各僧侶の行う葬場勤行に資する経文・偈文等を収録しています。

葬送儀礼を執り行う上で、導師をつとめる僧侶は、葬儀の意義をよく理解し、丹誠を凝らして勤めることが求められることから、『浄土真宗本願寺派葬儀のてびき』も同時に発行いたしました。新たに発行されました葬儀関連本二冊から葬儀という儀礼空間をどう構築するのか、共に学びましょう。

期 日	2025(令和7)年12月11日(木) 13時30分～16時30分
会 場	本願寺福岡教堂 3階礼拝堂(福岡市中央区黒門3-2/092-771-9081)
講 師	富島 信海さん(浄土真宗本願寺派総合研究所 上級研究員)
研修テーマ	「浄土真宗本願寺派 葬儀勤行集(拡充版)・葬儀のてびき」について
申込み	12月1日(月)まで ご参加希望の方は教務所までお申込みください。
持 参 品	『浄土真宗本願寺派葬儀勤行集(拡充版)』・『浄土真宗本願寺派葬儀のてびき』 『浄土真宗本願寺派葬儀勤行集』・『浄土真宗本願寺派葬儀規範』その他必要な物

浄土真宗本願寺派

本願寺福岡教堂・福岡教区

親鸞聖人報恩講法要

お申込不要
どなた様でもお参りいただけます
お誘いあわせのうえ、
お参りください

2026(令和8)年
1月26日(月)～28日(水)

7時00分 晨 朝(27日・28日のみ)

10時00分 帰 敬 式(28日※事前申込)

13時30分 法 要

14時50分 御 法 話(35分 2席)

16時30分 法要終了

※法要・御法話(13:30～16:30)はYouTubeにてライブ配信
をいたします

【講 師】藤澤 めぐみ さん
(本願寺派布教使・京都教区呉竹組興禅寺)

【会 場】本願寺福岡教堂 (福岡市中央区黒門3-2)
電話: 092-771-9081



○物産展等も行っております

【帰敬式】

日 時 2026(令和8)年1月28日(水) 受付9:00～ 開式10:00～

会 場 本願寺福岡教堂 礼拝堂(福岡市中央区黒門3-2)

募集人数 100名(定員になり次第締め切ります)

冥 加 金 成 人10,000円・事務費5,000円 合計15,000円

内 願20,000円・事務費5,000円 合計25,000円

未成年 5,000円・事務費5,000円 合計10,000円

内 願15,000円・事務費5,000円 合計20,000円

申 込 所属寺のご住職を通して本願寺福岡教堂までお申し込みください

申込期限 12月19日(金)(教堂必着)

(但し、内願法名希望の方は11月20日(木)[教堂必着]までにお申
し込みください)

一言一語

「永遠不変な意味」

佐々木 朋信 (福岡組 法泉寺)

今現在、多種多様な言葉があります。その言葉には様々な意味が込められており、私たちが話すときなどその意味に沿って話をします。同じ言葉でも過去と現在で異なる意味もあります。

「素晴らしい」は平安時代から江戸時代にかけては「ひどい」「とんでもない」といった意味で使われていましたが、現在は「大変優れている」という意味で使われています。

「すごい」は江戸時代では「恐ろしい」「ぞっとする」という意味で使われていましたが、現在は「すごい」「素晴らしい」といった意味で使われています。

「微妙」も、かつては「奥深く妙なること」を意味していましたが、現在は、問題や評価を全面的には受け入れたいが、完全に否定することためらわれる状況で態度保留を示す際に用いられることが多いです。

「やばい」は江戸時代では「危険」や「不都合」といった意味でしたが、現在では、おいしいものや感動した時などでも使われるようになっていきます。

「かわいい」は江戸時代では「かわいそう」「気の毒」といった意味で使われていましたが、現在は「愛らしい」「愛おしい」といった意味で使われています。

このように、時代を経てマイナスで使われていた言葉がプラスな言葉になったり、反対にプラスで使われていた言葉がマイナスな言葉として使われたりします。これから先、私たちが今話している言葉も時代を経て言葉の意味が変化していくこともありま

す。時代を経て変わっていく言葉もありますが決して変わらない言葉もあります。それは私たちが称える念仏「南無阿弥陀仏」であります。どんなに時代を経ても決して言葉の意味が変わらずこの私たちにまで至り届いてくださるのです。

「南無阿弥陀仏」は「南無（われにまかせよ）阿弥陀仏（必ず救う）」と声の仏となつてご一緒にいてくださります。この仏様が誓われた念仏を釈尊が説き、先人たちが繋いでくださって今こうして決して変わることなくこの私に至り届いています。

異動いたしました

石川 雄大
(福岡教区 早良組 眞教寺)

2025 (令和7) 年8月1日付けで、宗務所へ異動となりました。福岡教区内の皆さまには、大変お世話になりました、ありがとうございました。



退職いたしました

原田 智昭
(福岡教区 怡土組 教法寺)

2025 (令和7) 年6月30日付けで、退職いたしました。大変お世話になりました。今後は、自坊にてご法義繁盛に精進したいと存じます。



編集後記

初めて女性が首相に選ばれた。だが、女性の住職や総代はほぼいない。この広報部も全員男性だ。性別にこだわる必要はないのかも知れないが、大きく男性に偏った状態で意思決定していることを忘れずにいたい。

発行責任者

浄土真宗本願寺派 福岡教区教務所長 高原 眞見

〒810-0055 福岡市中央区黒門3-2
電話:092 (771) 9081